

ゲストティーチャー生涯学習講座

(RE-NEWAL) 知多半島の歩み(その一)

## 知 多 半 島 の 自 然

半田市文化財専門委員会 委員長 河 合 克 己

### 1, 地形と地質

- ・ 地勢

#### ★ 地形のようす

- 低地と丘陵地

- みっつの特徴的地域 (資料①・③-2 参照)

(資料①)

##### 二本の構造線

- ・ 大府一大高線
- ・ 名和一加木屋線

##### <構造線>

- ・ フォッサマグナ

- ・ 中央構造線

##### 丘陵の名称

- ★ 大府丘陵
- ★ 知多丘陵
- 武豊丘陵
- 美浜丘陵

さらに特徴的に

- ・ 師崎小起伏面

##### <撓曲構造>

- ・ 武豊面

- ・ 横須賀小起伏面

##### 段丘面

「段丘」とはどんなものか

- ★ 亀崎面 (高位段丘)

- ★ 野間面 (中位段丘)

- ★ 岩滑面・緒川面 (低位段丘)

◎ 「段丘」とはどんなものか

< 段丘のできかた > (資料) ②-1・②-2

- 段丘の出来るとき
  - 段丘の出来る場所
  
  - 「第四紀」という時代(氷河期)
  - 段丘のできかた
- 4回の氷河の発生
- I. ギュンツ  
(間氷期)
  - II. ミンデル  
(間氷期)
  - III. リ ス  
(間氷期)
  - IV. ウルム  
(後氷期)

資料②-3

- 知多半島の地形・地質的分類（その2）  
（「愛知用水史」の分類）（資料③-1・③-2）

（資料）③-1

（1）北部

（2）中部

（3）南部

（資料③-2）

（4）離島

## ★ 地質のようす

- 知多半島成立と地質  
＜出来上がっていくようす＞

師崎層群 ＜古伊勢海＞（資料④参照・写真資料1～10参照）

層序（つもり方）

|       |
|-------|
| 内海累層  |
| 山海累層  |
| 豊浜累層  |
| 日間賀累層 |
| ＜基盤岩＞ |

東海層群 ＜古東海湖＞（資料④参照）

層序（つもり方）

|        |
|--------|
| 上部常滑累層 |
| 下部常滑累層 |
| 豊丘累層   |

＜互層と不整合＞

更新世（第四紀洪積世）の地層

（資料⑤）

- 各層の堆積物
  - ・ 武豊層
  
  - ・ 高位段丘上の堆積物
  
  
  - ・ 中位段丘上の堆積物
  
  
  
  - ・ 低位段丘上の堆積物

層 序

|      |         |
|------|---------|
| 低位段丘 | 緒川段丘堆積面 |
|      | 岩滑段丘堆積面 |
| 中位段丘 | 半田層     |
|      | 野間層     |
| 高位段丘 | 亀崎面     |
| 武豊層  |         |
| 加木屋層 |         |

完新統（沖積層）—現在—

2, 地下資源

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

3, 災 害

- ・ 洪水
- ・ 高潮
- ・ 津波

資料⑥⑦⑧⑨

- ・ 地震

- ・ 丘陵の崩壊

#### 4, 気 候

【 気候区分＝ 】 (資料⑩・資料⑪参照)

★ 愛知県の気温分布 (資料⑩参照)

・気温の年間のようす

<夏期>

<冬期>

(資料補遺) 気 候 区 一 覧

| 気候区名    | 平均気温 | 年間降水量 | 東 海 型 | 15.7 | 2,355 |
|---------|------|-------|-------|------|-------|
| 北海道型気候区 | 7.6  | 1,136 | 瀬戸内型  | 14.5 | 1,139 |
| 中央高地型   | 11.0 | 1,058 | 南海型   | 16.1 | 2,645 |
| 北 陸 型   | 13.3 | 2,388 | 北九州型  | 15.7 | 1,869 |

(註) 数値の単位、気温は摂氏、雨量はmm

★ 愛知県の降水量分布 (資料⑪参照)

・降水量の年間のようす

★ 冬の気候の特色（資料⑬・資料⑭参照）

◎ 冬の季節風

○ 濃尾平野の季節風

伊吹風 ・ 鈴鹿風 （資料⑫参照）

○ 知多半島の二つの風

○ 冬季における知多半島内各地の風の強さ（資料⑮参照）

東海市～新舞子辺へかけて・常滑市・上野間・内海・師崎  
（冬の平均風速 ～ m/秒 ）

◎ 寒さの強弱を表す指数 酷寒指数（資料⑯参照）

- ・参考値 網走・根室（ /1月平均）
- ・濃尾平野・木曽三川・知多半島（ /1日）

◎ 知多半島の冬の「ある日」 昭和61年（1986）2月10日  
（資料⑮・⑯） （愛教大小和田道雄教授の調査刊）

各地の酷寒指数（資料⑯参照）

- ・東海市・上野間（ ）
  - ・内海・新舞子・師崎・布土・東浦（ ）
  - ・半田・大府・緒川（ ）
- 違いが出た理由は？

◎ 半田市の冬の「ある日」（資料）⑯-2）

昭和61年（1986）1月26日（大和田教授の調査）

当日の気圧配置（ ）

・風（風速）

奥町・桃山町・池田町・宮本町＜西部＞（ m/1秒）  
日東町＜海岸＞（ m/1秒）  
康衛町＜海岸＞（ m/1秒）

・気温（度）

市内の大部分（ 度C ）

宮本町のみ ( 6度C以上 )

・湿度 (%)

宮本町 <西部> ( 40%以下 )

その他の西部は50~60% その理由【 】

・酷寒指数 (資料⑩-2)

乙川・住吉・馬捨・宮本・有楽町・新宮町 (指数 以上)

あとの大部分 (指数 以下)

特に、亀崎町・康衛町・川崎町 (指数 以下)

その理由は? 【 】

★ 夏の気候の特色 (資料⑰・⑰-2)

昭和54年 (1979) 8月1日 (大和田道雄教授調査)

◎ 南の風

( 北太平洋高気圧にすっぽり覆われていた日)

=

【海風】がふく

○ 風速

・木曾三川に添って 岐阜・大垣まで ( m/秒)

美濃加茂まで ( m/秒)

・庄内川に添う風は

・知多半島へ吹く風は ( m/秒)

・海岸部は? ( m/秒)

◎ 暑さ

○ 高温域は―― 濃尾平野北部 (岐阜市・各務ヶ原市)

名古屋市北部 ( )

<38度以上の所>

名古屋市南区~瑞穂区・守山区

山間部 (多治見・ ・ ・ 豊田・ ・ )

新城) =理由は?



海岸部は低く34度C以下

知多半島と渥美半島は ( ) 度C) 特に低し

その理由は＝

※ 半田のみ特に高かった(35度C)

その理由は＝

● 濃尾平野は「異常気象(特に高温)」が発生しやすい傾向にある。

その理由

- (1) 地形
- (2) 小笠原高気圧の形
- (3) 小笠原高気圧からの風の向き
  
- (4) 台風崩れの低気圧の針路
- (5) 中央高地からの風

○ 不快指数の分布(資料⑰・⑰-2)

・ 分布

濃尾平野や愛知県全域は80以上で、  
さらに、濃尾平野は86以上となる

【理由 ( )】

さらに、濃尾平野北部は( )

名古屋市では、笠寺付近が( )

・昭和62年(1987)8月18日の知多半島の例

気温—伊勢湾岸(常滑付近)( )度C～( )度C)であった  
半田市 ( )度C)

これに湿度が加わり不快指数が増加した。

○ 不快指数が高かったところ

東海市・巽ヶ丘・阿久比団地＝84、

半田市街地・武豊町市街地・火力発電所付近(富貴)＝84

○ 比較的良かったところ

半田市内でも亀崎・有脇＝81、武豊IC付近＝81

美浜町野間(伊勢湾側)、師崎＝81

